**「ホーリ・マザー・シュリー・サーラダー・デーヴィー」**

2022年1月16日

逗子例会

ホーリ・マザー・シュリー・サーラダー・デーヴィー第169回生誕祝賀会

スワーミー・メーダサーナンダによる講話

於・逗子本館

　シュリー・ラーマクリシュナの霊性の伴侶であるホーリ・マザー・シュリー・サーラダー・デーヴィーについて話をするのは少し難しいと言わざるを得ません。シュリー・ラーマクリシュナとスワーミー・ヴィヴェーカーナンダについて話す方が簡単です。なぜなら、お二人は誰とも比べ物にならないほどの存在で、その生涯は多くの興味深く重要な出来事に彩られているからです。一方、ホーリ・マザーは、とてもシンプルで奥ゆかしい方でした。外から見ると、マザーの生涯は、特別でも華々しくもカリスマ的でもドラマチックでもありません。だからお話をするのが難しいのです。

ホーリ・マザーはインドの伝統に従って、いろいろな人の集まるところでは顔を完全にヴェールで覆っていました。誰もマザーの眼を見たことがなかったので、ものごとに対するマザーの反応を読むことはできませんでした。マザーの最大のヴェールは、シンプルかつ謙虚な性格でした。その性格でほとんどの人びとから本当のマザーを覆い隠していたのです。目立たない見かけの背後には並外れた何か、見た目は平凡でも素晴らしく卓越した何かがありました。

実際、弟子たちにホーリ・マザーの非凡さを最初に気づかせたのは、シュリー・ラーマクリシュナご自身でした。それがなかったら、シュリー・ラーマクリシュナの出家直弟子でさえ、ホーリ・マザーの偉大さも比類なき神聖な人格も知らなかったでしょう。

**礼拝を受ける者と礼拝をする者、どちらがより偉大でしょう？**

皆さんにお聞きします。礼拝を受ける者と礼拝をする者、どちらがより偉大ですか？　もちろん一般的には、礼拝を受ける者の方が偉大だと答えますね。この見方からいうと、シュリー・ラーマクリシュナという神人は何百万人もの魂によって礼拝を受けているので、その偉大さはよく理解できます。しかし、シュリー・サーラダー・デーヴィーはシュリー・ラーマクリシュナから礼拝を受けました。ということは、お二人は一つの霊的存在の二つの側面ですが、ある意味、ホーリ・マザー・シュリー・サーラダー・デーヴィーの方がシュリー・ラーマクリシュナよりもさらに偉大であったと結論付けざるを得ません。

また、マザーはシュリー・ラーマクリシュナからの礼拝を、何ら反対することなく、気まずさも恥かしがることもなく、受け入れました。普段のホーリ・マザーは非常に恥らい深い方でしたし、シュリー・ラーマクリシュナに対する深い敬意を考えると、あっさりと礼拝を受けるなど考えられないことです。

礼拝のためのすべての品々は準備され、ドッキネッショルのシュリー・ラーマクリシュナの部屋には礼拝を受ける者の座がしつらえられ、花やお供え物が供えられました。これらすべてが整うと、サーラダー・デーヴィーはシュリー・ラーマクリシュナの部屋に呼ばれ、席に着くように言われました。そして、シュリー・ラーマクリシュナが儀式的礼拝を始めた瞬間、ホーリ・マザーはサマーディに入りました。

このサマーディの意味は？　マザーは、ご自分が聖母の化身であり根本エネルギーである、という自らの本性にすぐさま気づいたのです。そうです、マザーは自分自身を完全に聖母と一体化してシュリー・ラーマクリシュナの礼拝を受けました。もしマザーが自分の本性にすぐに気づかなかったら、シュリー・ラーマクリシュナの礼拝を受け入れることはできなかったでしょう。ホーリ・マザーは宇宙の聖母として、聖母の子供であるシュリー・ラーマクリシュナからの礼拝受け入れました。

そのプージャー（礼拝）の最後にはシュリー・ラーマクリシュナもサマーディに入りました。つまり、礼拝する者と受ける者の両者がサマーディに入り、超意識のレベルで一体となられたのです。このことは、同じブラフマンが神人ラーマクリシュナとシュリー・サーラダー・デーヴィーとしてあらわれたことを意味します。その後、両者が肉体レベルに戻ると、ホーリ・マザーはシュリー・ラーマクリシュナに心でプラナームを捧げて部屋に戻りました。［礼拝を受けた人は、礼拝をやり返すことができないので］

この出来事の後、他者がシュリー・ラーマクリシュナを礼拝しているときに、実は私はシュリー・ラーマクリシュナから礼拝を受けたことがあるんですよ、とホーリ・マザーが話したことがあるでしょうか？　マザーはそのような自慢を楽しんだことなどあるでしょうか？　絶対にありません。そして、シュリー・ラーマクリシュナの礼拝を受け入れ、没入できるほどの、マザーの霊性の高さを思うにつけ、人は驚きの念に打たれます。私がこの例をシェアしたのには理由があります。それは、私たちがホーリ・マザー・シュリー・サーラダー・デーヴィーをシュリー・ラーマクリシュナの妻として称賛するだけでなく、ホーリ・マザーご自身が本当に、聖母の化身として私たちの最高の尊敬を受けるに値するお方である、ということをお伝えしたかったからです。

私がその違いを指摘したのは、当時のシュリー・ラーマクリシュナの在家弟子のほとんどが、ホーリ・マザーをグルであるシュリー・ラーマクリシュナの妻としてしか見ておらず、マザーを師の妻として尊敬していたからです。

**ホーリ・マザーはどのような母であるか？**

ある時、ギリシュ・チャンドラ・ゴーシュという大変率直で大胆な師の弟子がホーリ・マザーに尋ねました。「私はあなたがどのような母なのか知りたいです。あなたは私たちのグルの奥さんだからお母さんなのですか？　それとも私たちより年配だから「お母さん」なのですか？　あなたは私たちを生んだわけでもないのに、どうして私たち皆、あなたをお母さんと呼ばなければならないのでしょうか？」　ホーリ・マザーのシンプルで信念に満ちた答えは、「私はグルの妻だから『お母さん』なのではありません。私は仮の母でもないし、なんとなくお母さんなのでもありません。私はあなたの『本当のお母さん』です。私はあなたの『永遠の母』です」というものでした。

私たちの周りのすべての母親は、聖母の化身です。マザー・ドゥルガーのチャンディ聖典には「すべての母親の姿でご自身をあらわしている聖母に、［幾重にも］敬礼します」と書かれています。つまり、聖母はすべての母親と、母性として、ご自身をあらわしているのです。その点から、ホーリ・マザーは私たち皆のお母さんです。今生だけでなく、来世もそのまた来世も、ずっと続く未来まで私たちのお母さんなのです。なぜなら、マザーこそが聖母の化身だからです。

シュリー・ラーマクリシュナは、神の化身として、世界の教師として、聖なる役割を演じられましたが、それはどなたの力でできたのでしょうか？　それは「シャクティ」の権化であるホーリ・マザーの力によってです。アヴァターラ・リーラ（神の化身の遊び）は、常に聖母の力によって可能となるのですから。ブラフマンがプラクリティと一つにならなければ、ブラフマンは神の化身として活動できない、とシュリー・ラーマクリシュナは言いました。つまり、シュリー・ラーマクリシュナはサーラダー・デーヴィーとして化身した聖母の力によって、ブラフマンの具現化した存在になったのです。

**シャンカラ、聖母を避難所とする**

一つの物語があります。アディ・シャンカラーチャーリヤ（シャンカラ）はシャクティを信仰せず、ブラフマンだけを信仰していた頃の話です。ある日、シャンカラはベナレスで病気にかかり、大変衰弱しました。シャンカラはガンジス川に触れたいと思ったのですが、町は小高い場所にあり、川のガート（炊事やヒンドゥ教の沐浴、葬礼をするところ）の階段はとても急だったので、行くことを諦めました。その代わりに誰かにガンジス川の水を汲んできて欲しいと願いました。一人の老女がガンジス川に沐浴に行こうとしているのをみて、シャンカラは「お母さん、沐浴がおすみになったら、すみませんが私にガンジス川の水を汲んできていただけませんか？」とお願いしました。

女性はその願いに驚き、身振り手振りで川を指しながら「なんで私が？　自分で行なさい！」と伝えました。シャンカラは、自分はとても弱っているので川に行って戻ってくる力がないのです、と説明しました。

「なんだって？　あなたは力を信じていない！　シャクティの力を信じていないのに、どうして力がないと文句をいうのかね？」　本当は老女は、「ブラフマン」への信仰だけではことをなせない、ということをシャンカラに教える聖母だったのです。聖母、シャクティを信じなければ、霊的な知識と理解は不完全なままです。のちにシャンカラは『バヴァーニ・アシュタカム』という素晴らしいストットラム（賛歌）を作りました。その中の数節は「おお、母なるバヴァーニ（ドゥルガー女神）様、あなただけが私の避難所です」で締めくくられています。

**どのように理解が来るか**

偉大な魂でさえ、霊的に完全になるためにはシャクティを信じ信仰することが求められます。

ブラフマンだけ、シャクティだけ、を信じても、悟りは完全なものになりません。ブラフマンとシャクティの両者は二者ではあるが実際には一つの存在である、と信じたとき、その人の霊的悟りは完全なものになります。宇宙が創造されるや否や、母の遊びは始まります。この宇宙は聖母の管轄下にあるのです。そこで聖母は遊びを楽しみます。

シュリー・ラーマクリシュナは若い弟子たちに繰り返し言いました。「よく覚えておおき、カーリー寺院のお母さんと、ナハバト（音楽堂）のお母さん（サーラダー・デーヴィー）はひとつの同じ存在なのだよ」　シュリー・ラーマクリシュナが肉体を去って少ししてからのことです。スワーミー・ヴィッギャーナーナンダジーはラーマクリシュナ僧院の副僧長として、また後には僧長として、信者たちにイニシエーションを授けました。ヴィッギャーナーナンダジーは誰かにアドヴァイスを与える時や講義をするときには、シュリー・ラーマクリシュナのことだけを話しました。そんな時、シュリー・ラーマクリシュナがヴィジョンとなってあらわれ、なぜ私のことだけを話すのだい？と問うたのです。「どうして『彼女』（ホーリ・マザー）のことも話さないのだい？　本当は私ではなく『彼女』が解脱を与えるのだよ！　『彼女』のことも忘れず話しなさい。そうしないでどうやって信者たちが解脱できるというのかね？」　『彼女』が私たちを束縛しているので、もし『彼女』の恩寵を受ければ、私たちは束縛から解放されます。束縛から解放されたければこのように『彼女』に祈ってください、どうか束縛のかせを真二つに断ち切ってください、束縛から解放してください、と。なぜなら『彼女』ご自身が私たちを縛り、『彼女』ご自身が私たちを解放してくださるお方だからです。

ひとつ重要なことがあります。私自身の人生を振り返ってみると、霊的生活において意識と気づきが高まれば高まるほど、あることをより理解するようになりました。私たちはシュリー・ラーマクリシュナやホーリ・マザーの写真や像を見て、尊敬をもって礼拝します。それはいいですが、それだけでは私たちの霊的レベルは上がりません。もし私たちの霊的生活をもっと濃厚なものとし、霊的理解を深めたければ、シュリー・ラーマクリシュナとホーリ・マザーの本質を理解する必要があります。ではどうすればお二人の本質を理解することができるでしょう？

ご存じのように、お二方の写真には何も特別なところはありません。しかし、お二方について学べば学ぶほど、考えれば考えるほど、その生涯や教えについて瞑想すればするほど、その時、写真や像はお二方のあらわれそのものである、ということがもっともっと分かるようになり、その真実味はさらに深みを帯びるようになります。それはとてつもなく広大なのです。一つの良い例が『ラーマクリシュナの福音』です。『福音』は一度読むだけでもいいですが、何度も読めば読むほど、より理解できますね。そして、『ラーマクリシュナの福音』からさらなる光を得れば得るほど、私たちは成長します。私たちはそのことに気づいていないかもしれませんが、霊的生活は間違いなくより豊かになります。そして霊的生活が豊かになればなるほど、『福音』を読むたびに『福音』から得られる光が増えるのです。このように『福音』を読み、考え、瞑想することで、私たちはシュリー・ラーマクリシュナとホーリ・マザーの人格の本当の素晴らしさをより認められるようになります。

そしてスワーミー・シヴァーナンダジーは言いました。「シュリー・ラーマクリシュナが生きておられたとき、私たちは多くのことを聞いたが、おっしゃることの深い意味はほとんど理解できませんでした。実際、シュリー・ラーマクリシュナは『今は聞くだけでいいよ。後でお前たちには分かるだろうから』とおっしゃったものです」　シュリー・ラーマクリシュナが亡くなって何十年も経ち、若かった信者も年配の僧侶となったころ、多くのタパッスヤー（苦行）や霊的実践を積んだシヴァーナンダジーは言いました。「今やっと、シュリー・ラーマクリシュナがかつて私たちにおっしゃったことの本当の意味が分かるようになりました」　シヴァーナンダジーの理解よりは狭いかもしれませんが、私たちはもっと、ホーリ・マザー・シュリー・サーラダー・デーヴィーの人格と教えの本当の目的と意味を理解するよう心がけるべきです。それは私たちの霊性の発展に貢献します。たとえヴェーダーンタ哲学を学ばなくても、それは霊性を開発するための一つの道だからです。

**私たちはまだ遠い**

皆さんご存知のように、シュリー・ラーマクリシュナはドッキネッショル寺院のカーリー女神の像を礼拝していました。師は、宇宙の創造・維持・破壊の主であるカーリーお母さんにたびたび話しかけました。そのことを聞いた神の形のない側面だけを信じるブラフモー・サーマジのケシャブ・チャンドラ・センは、マザー・カーリーの小さな神像が一体どうやって広大な宇宙を生み出すことができるのでしょう、と驚きつつ面白がりました。論理的にそれは不可能ですから。ケシャブがその疑いと混乱を伝えると、シュリー・ラーマクリシュナは次のような例を挙げました。「ケシャブ、ごらんよ。我々が太陽を見上げると、太陽は小さな円にしか見えないけれど、本当にそうなのかね？」　太陽に近づけば近づくほど、太陽はもっともっと大きいことが分かります。「今、お前さんはマザー・カーリーからとても遠いところにいるんだよ」　「でもね、マザー・カーリーに近づけば（理解すれば）、お前にもそれは小さな神像なんかじゃない、ということが分かるだろうよ。カーリー女神は、本当は無限なんだから」とシュリー・ラーマクリシュナは続けました。そうです、カーリー女神は一番大きいものよりも大きく、一番偉大なものよりも偉大な存在です。

同じように、シュリー・ラーマクリシュナとホーリ・マザーのお写真が私たちにはどうしてそんなに小さく見えるのでしょうか？　それは私たちがお二方から離れているからです。それは物理的に近いとか遠いとかではなく、心と霊的な意味での距離です。しかし、私たちが霊性の道においてお二方に近づけば近づくほど、つまり、その本性について、長く深い祈りと瞑想をし、身体、心、霊的に純粋になれば、そのとき私たちはさらにお二方の人格の広大さと深遠さを理解できるでしょう。そうなれば、シュリー・ラーマクリシュナとシュリー・サーラダー・デーヴィーはブラフマン以外の何者でもない、神ご自身、聖母、「彼女」ご自身以外の何者でもない、ということが分かるでしょう。